

令和6年度 目黒区居住支援セミナーの開催報告

1 日時及び会場

日時：令和6年12月6日（金）13時30分～15時

場所：大会議室（目黒区総合庁舎）

2 対象及び人数

対象：区内賃貸物件の所有者、不動産事業者、福祉事業者等

人数：54人（内訳：会場35名、オンライン19名）

3 内容

テーマ：目黒区に「住む」・「住み続ける」ための居住支援

講師：目黒区居住支援協議会委員 東洋大学教授 山本 美香 氏

目黒区住宅政策審議会委員



4 アンケート集計結果

裏面の通り

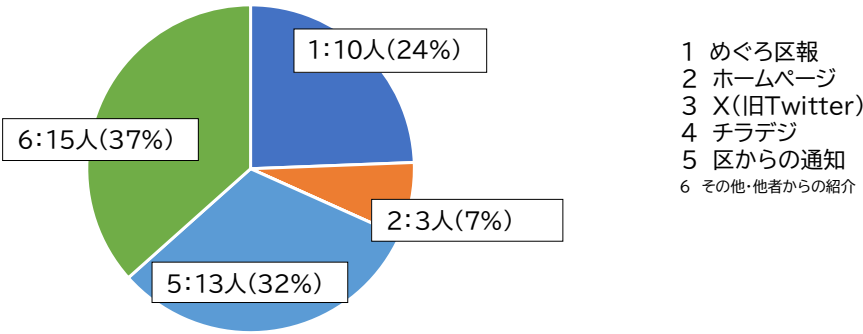
以 上

令和6年度目黒区居住支援セミナー(令和6年12月6日実施) アンケート集計結果

- 参加者 54名(会場 35名 オンライン 19名)
- アンケート回答数 37名(会場 25名 オンライン 12名)【回答率68%】

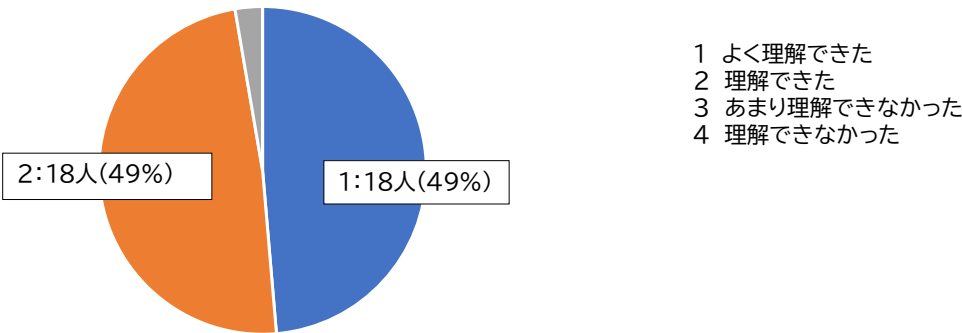
【質問1】 この講座を何で知りましたか？(複数回答可)

めぐろ区報	ホームページ	X(旧Twitter)	チラデジ	区からの通知	その他・他者からの紹介
10	3	0	0	13	15



【質問2】 講演「目黒区で『住む』・『住み続ける』ための居住支援」について

よく理解できた	理解できた	あまり理解できなかった	理解できなかった
18	18	1	0



【質問3】 セミナーの内容について、主な意見や感想

具体的な例が多く、非常にわかりやすい内容でした。住宅の問題も病気の問題と同じく、分断されていることが解決を遠のかせているように感じました。1つの窓口から、総合的な相談を一生できる仕組みがあると良いと思います。福祉のコンシェルジュの存在が大きくなると嬉しいです。
中に事例がのっていたが、その後、どのような対応がとられたのか聞いてみたかった。 身寄りがなくとも、金銭に余裕がある高齢者の方は、保証会社に死後事務委任を頼むことができるだろうが、余裕がない方は日ごろ近隣住民とコンタクトをとり、なにかあったときのためにも親族等の連絡先を伝えておく等の自衛が必要なのではないかと思われた。
私自身、父親(82歳)が単身で区内に居住しております。 入居に際し、内装をすべて負担(350万円)した上で入居可能となりました。賃料は若い人でも保証会社が必須です。オーナーも含めたインセンティブが必要と思われます。 民生委員の力が大きいので、町会・自治会への加入を条例化するなどしてほしい。弊社の契約書には加入義務を課しております。
大家が貸してもよいと思える条件・想定される状況を紹介してほしい。
民生委員として立ち退きのケースにも関わっています。内見にも一緒に来てほしいと言われれば同行することもあります。80代になると転居は難しくなります。誰もが安心して住める場所だけは確保できる社会になってほしいと思います。
とてもわかりやすい説明でした。講師の方が質疑応答の際にもとても丁寧に回答をされていて、好感を持ちました。 今回のお話は総論がメインだったので、目黒区の現状に焦点を当てた話も聞いてみたいと思いました。
家主側の課題とのミスマッチがあると感じた。 ・家賃保証はあって当然として、必要なのは現状回復と残置物処理の保証をしてほしい。 ・定期借家契約なら貸したいが、借主が断ってくる。 ・死亡時よりも、施設入所のための退去が多く、そこへの対応が足りない。